

令和8年3月18日（水）

県議会 2月定例会 本会議 総括質問

県政の重要課題を問う、総括質問の機会をいただきました

1 令和6年能登半島地震からの復旧・復興について問う

❶能登半島地震からの復興について 答弁（知事）

復旧復興ロードマップは随時の見直し・点検で被災市町村等と連携しながら取り組み、公共インフラを中心に着実に進んでいる。震災の記憶と教訓を風化させない取り組みは出前講演会、四季防災館での展示等で進めている。



❷宅地液状化基金の効果的な活用について 答弁（知事）

基金30億円は長期的運用により安定財源の確保を見込む。地下水位低下工法の長寿命化費（ポンプ、集水管など）以外の利用は考えていない。

2 とやまの未来創生を深化させる取組み、地域経済の活性化について問う

❶黒部宇奈月キャニオンルートの一般開放に向けた取組みについて 答弁（知事）

富山地方鉄道立山線を活用した商品を検討しており、アルペンルートと一体的に捉えたプロモーションや沿線の魅力発信に取り組む。

❷オーバーツーリズム対策について 答弁（観光推進局長）

道の駅雨晴では市による駐車場のライブカメラ、県では国道の拡幅および歩道整備を実施。周遊ルートなど情報発信による観光客の分散、人流データの分析などの対策を講じていく。

❸JR城端線・氷見線の再構築と参画意識の醸成について 答弁（交通政策局長）

交通系ICカードが導入され、直通化の調査事業費も新年度予算に計上。今後は新型車両の製造や運行本数増加に向けたダイヤ検討に着手。

❹富山空港の活性化に向けた取組みについて 答弁（知事）

4月から混合型コンセッションを導入。運営事業者とともに路線誘致、旅行商品の造成、高山など近隣地域の需要取り込み等を通じて空港の魅力向上や利用促進に戦略的に取り組む。

❺高岡テクノドームについて 答弁（商工労働部長）

基本設計の段階にあり、施設の運営手法の検討や催事誘致も進めていく。令和10年度の完成を見据えた整備と催事誘致に取り組む。

❻空き家対策について 答弁（土木部長）

空き家の流通・利活用の促進のため空き家フルリノベーション支援事業として民間業者に断熱性や耐震性を有する改修費用を支援する。

3 安心・安全な県づくりについて問う

❶県立中央病院の役割等の明確化について 答弁（知事）

県内医療の中核。新たな地域医療構想では医療需要および医療従事者の減少が見込まれ、経営上の採算も見極めながら機能再編に取り組む。

❷今冬の除雪対策の成果等について 答弁（土木部長）

大雪時はタイムラインに基づき段階的に備えてきた。持続可能な除雪体制に向けて担い手の確保、作業の効率化、県民の協力が不可欠。

❸水と緑の森づくり税※1の延長と県民目線での活用について 答弁（知事）

現在の課税期間が令和8年度。県民調査では期間延長に賛成が多数。里山再生等以外にも自然災害、野生動物への対策など新たな使途にも期待。

❹拉致問題への取組みについて 答弁（佐藤副知事／生活環境文化部）

アニメの活用、作文コンクール等で児童生徒への周知に努めているほか講演会やパネル展等の開催など若年層の理解促進を図っている。

❺県立学校体育館の環境整備について 答弁（教育長）

空調整備は令和9年度までに特別支援学校を完了、令和12年度には県立高校の整備完了を目指す。

4 明日を拓く人づくりについて問う

❶選ばれる県立高校に向けた取組みについて 答弁（知事）

地域・企業・学校等と連携した探究活動、制服や校則の変更、中学校へのPR訪問やSNS等での魅力発信など選ばれる学校づくりを目指す。

❷子どものネット依存対策について 答弁（こども家庭支援監）

通信事業者にインターネットフィルタリングサービスの提供を義務付けしているほかリーフレット、小冊子の配布などで啓発に努めている。



❸不登校対策について 答弁（教育長）

カウンセラーやソーシャルワーカーを拡充してきた。新たにスーパーバイザーを配置、令和8年に「学びの多様化学校」、令和9年に県立夜間学校を開校。

❹持続可能な行政サービスの提供について 答弁（知事）（化部）

県道市道の維持管理の一体化、災害時相互応援体制の構築、公務人材確保のための合同採用説明会など県や市町村という行政組織の枠組みに捉われないで考えていく。



令和8年9月11日（金）

県議会 9月定例会 本会議 一般質問

1 災害からの復旧・復興、安全・安心な県づくりについて

❶8月の大雨災害で浸水被害を受けた家屋の復旧などの支援、支援パッケージの周知にどう取り組むのか、問う。

答弁（知事）関係大臣に激甚災害の早期指定や被災地の早期復旧への支援を要望。「被災者支援パッケージ」は県HP、公式LINE等のSNSにより広報。被災市もホームページや公式LINE等を通じて周知。4市において、大規模半壊から準半壊までの住家を対象に応急修理を支援。国の被災者生活再建支援制度のほか県独自で能登半島地震と同様の支援を検討。

❷液状化対策について7月の熊本地震も踏まえて効果の再検証など今後の展開を問う。

答弁（知事）熊本地震では10年前の震災後に地下水位低下工法を実施した熊本市内の近見地区では再度の液状化被害は確認されなかったと聞いている。工法の有効性を再認識させるものであったと考えている。

❸再度の豪雨災害発生原因の分析や各種対策を進める必要があると考えるが、問う。

答弁（知事）過去に浸水被害があった地域も含め、被害が拡大した要因の把握が重要。市町村や関係機関と連携し降雨の状況、河川水位や排水状況、施設の被災状況、浸水範囲等、現地調査やデータ整理を進める。原因や課題を検証し、必要な復旧方法や改良復旧、排水対策、流域全体での対策などを検討する。



❹止水板や防水板など浸水被害の未然防止対策への支援を検討すべきと考えるが、問う。

答弁（危機管理局長）自然災害に対する事業者の事業継続力の強化のため土のうや止水板、排水ポンプ、防水シートなどの購入経費を対象とした補助を実施。避難所に指定されている施設を有する事業者には資機材整備に係る経費を補助。止水板等は費用面や保管場所、設置訓練などの課題があり導入しやすい環境づくりが重要。レンタルは県レベルで支援の事例はないが検討する。

❺令和の公共インフラニューディール道路※2集中メンテナンスの進捗状況を問う。

答弁（土木部長）年度当初は材料の価格高騰や中東情勢の影響もあり、塗料・シンナーなどの材料の入手が懸念された。現在は当初予定していた工事はすべて発注し、受注もされて順調に進捗。

2 とやまの未来創生を深化させる取組み、地域の新たな魅力づくりについて

❶「新時代とやまハイスクール構想」第1期再構築の方針案の地域からの声をどのように受け止めているか。

答弁（知事）意見交換会やパブリックコメントなどを通じ、期待と懸念双方の意見があった。閉校する案とした学校の地域や同窓会から、学校の存続を求める声のほか、伝統や特色の継承、在校生の教育環境の維持、跡地の有効活用などを求める意見があった。内容を精査しており必要な対応を検討し、10月中を目途に取りまとめたい。

❷「第1期設置方針」（案）で閉校の3校の来年度以降の生徒募集への支援や、学びの環境の維持・向上への取り組みを問う。

答弁（教育長）来年度の学級編制において、教科ごとに必要な教員を配置してきめ細かな指導や多様な学習機会を確保できるよう、学級数と募集定員を維持し、教員配置にも配慮。中学校での説明会、各校のHPやSNSをさらに活用し、学校行事や部活動などの「生徒目線での、日々の高校生活」を発信するなど生徒募集や教育環境の維持・充実に努める。



❸伏木高校に国際交流科が設置された後、学校の魅力向上等に対して県はどのような取組みを行ってきたのか。

答弁（教育長）環日本海諸国の言語や文化などの学びを通じ、国際社会で活躍できる人材を育成するため、平成17年に県内初の国際交流科を設置。複数のALTによる英語指導、第2外国語を指導する講師の配置など、教育活動に必要な指導体制の充実に努めてきた。現在取り組んでいる「次世代創出PBL推進事業」では国際交流と地域連携を結び付けた探究的な学びを支援。

❹国際交流科を時代の変化に即して環日本海以外への観点の転換の必要があったのではないか、問う。

答弁（教育長）これまで培ってきたものをベースに新たな国際的な取組みをやってきた。国際情勢が複雑化する中、それぞれの高校はこれまでの取組み実績を踏まえて、時代の変化も見据えて教育の充実を図っていかなければならないと考えている。

❺高岡市が検討している武道環境施設の整備に対し県も財政支援を行うべきと考えるが、問う。

答弁（生活環境文化部長）富山と高岡の武道館を統廃合し、新たな県武道館を県総合運動公園内に整備を進めている。高岡市では古府小跡地を活用した武道機能施設として、同校の体育館を改修方針。財政支援は詳細な整備計画や概算費用を聞いたうえで具体的に検討し、改修が行われる令和10年度から3年間程度は高岡武道館を利用できる方向で検討。